

※KPI…Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果目標として設定するもの

事業名	事業の背景	事業の概要	事業効果	KPI※	目標値 (計画期間累計)	平成29年度			平成30年度			令和元年度の取組状況 (事業内容、年度途中の実績など)								
						単年度目標	実績	事業費(円)	単年度目標	実績	事業費(円)									
美里の未来を見つめず事業 (三み一体事業)	<p>津市は、平成18年1月1日に10市町村が合併を行っているが、合併した旧市町村の一つである旧美里村を範囲とする美里地域は、江戸時代、伊賀街道の重要な宿場として栄えてきた歴史があり、今もなお数多くの歴史的資産が存在する。また、当該地域は、標高819メートルの経ヶ峰のふもとにある中山間地で、清流長野川が走る、豊かな自然が残る地域である。そしてそのような環境で育んできた、人と人の繋がりが強いコミュニティがいくつか形成されている。</p> <p>しかしながら、地域の人口は、平成28年12月現在で約3,600人となり、平成18年以後約10年間で約13%減少しており、児童数も10%減少し、高齢化率は37%を超えている。これに伴い地域住民の生活を支える機能が失われつつあり、地域における雇用の創出・拡大も難しく、利用者数の減少による公共交通の減便や空き家の増加に加え、これまで維持されてきた地域コミュニティの衰退が危惧されている。このようななか、現状打破に向けた具体的な取組を進めたいとの意欲が高まっており、地域が主体となった具体的な事業展開の支援が、まさに求められている状況である。</p> <p>このことから、地域が有する資源を生かしながら、地域のコミュニティが将来にわたって継承され、こどもから大人まで地域一丸となって地域づくりに取り組み、地域の人々がいきいきと暮らし、観光客などの交流人口の増加により賑わいがある姿を目指す。</p>	<p>平成29年度から地域内3小学校と1中学校を統合する義務教育学校「みさとの丘学園」を開校し新たな教育実践に取り組むこととしているが、閉校する3小学校区では、それぞれ人と人の繋がりが強く、地域の未来に向けた取組を進めたいという意欲を持つコミュニティが形成されている。</p> <p>そこで、閉校となる各小学校を活用し、それぞれの地域の特徴に応じたマルシェや収穫祭、定期的なスポーツ大会などのイベントの開催を土台として、人口減少にあっても衰退しないさらに強い地域コミュニティと地域の拠点を形成するとともに、地域の食材の活用、販路や交流人口の拡大を図る。</p>	<p>◆平成30年度は、3つの協議会がそれぞれのテーマやコンセプトに基づいた事業の企画、実施を行い、各協議会が今後の「活用」へのベースとなるものを鮮明にしてきた。</p> <p>◆継続的な事業となるように、協議会の体制の強化に力を入れているが、3つの旧校区ではそれぞれの人のつながりや年齢構成等も違い、体制づくりの進捗にばらつきが出始めており、今後の課題となってきた。</p> <p>長野…長野地区内で、協議会の活動に参加する方の広がりが作り出せていないが、一方で地区外の方々の協力が大きい状況もある。</p> <p>高宮…これまで女性の参加が少なかったが、平成30年度は女性の参加も多くみられるようになった。しかし、まだまだ協議会運営の力が弱いこともあって、各自治会からの代表以外の方の参加をもっと増やしていくことが課題である。</p> <p>辰水…辰水地区内からの協力者は他の2地区に比べ多く、企画への参画は少しずつ輪を広げている。ただし、地区外からの利用者が増えているにも関わらず、協議会への参加者が増えず、協議会として、地区外からの受け入れ態勢の強化が課題といえる。</p> <p>◆主な取り組みでの参加者数 長野…学校マルシェ 約5,000人 高宮…ふるさとフェスタ 約600人 辰水…たつみずフェスタ 約600人 ほろ酔いジャズコンサート 約300人 放課後子ども教室(毎月1回 20名) たつの和カフェくら(毎月1回 100名)</p> <p>◆各協議会においては、旧小学校施設が、活動の幅を広げ、より多くの交流の場としていけるように、外部からの団体の活動を協議会が共催して実施するなどして、これまで施設を使ったことのない新たな利用者の確保をすることも出来た。 こうした取り組みを通じて、協議会の活動に協賛いただける個人・団体が増え、協議会組織の強化につなげていくことができていると言える。 各小学校での他団体利用によるコラボレーション 例：長野…ドローン教室の定期的な開催 辰水…コスプレ団体の活動の場の提供(年間2回)</p> <p>◆高宮については、校舎部分を津市に返還し、津市役所の書庫として新たな活用をすることになった。これにより、校舎全体の管理的な負担が軽減され、活動の中心は、「給食棟」となり、目指している「食を中心とした取り組み」に特化していけることとなった。</p> <p>◆「みさっと」が中心となって、各協議会の活動の交流や情報交換を行ってきた。相互連携による具体的な事業が見いだせていないが、各協議会での事業の中で、例えば、イベントの応援スタッフを派遣することなどの、地区を越えた協力体制を作ることできた。</p> <p>◆旧小学校施設の利活用については、持続可能な活動となるよう、行政が施設管理を行い、施設の運用や具体的な事業実施を協議会が担うことで協議会の負担軽減を図るとともに、活動の幅を広げ、自由度を高めるため、行政からの要請は注意事項等、最小限にとどめることで、各地区の特色を活かした独自性のあるイベントの開催に繋げることができているといえる。</p> <p>◆活動の継続に必要な不可欠な自己資金の確保に向けては、令和元年度に過去2年間の収支を再検討し、どういった形で収益をあげていくかを方針化することとしている。</p> <p>◆平成30年度については、KPI③イベントにおける年間集客数が前年度を下回り(6,500人の来場)、毎年度増加させる単年度目標値を達成できなかったが、KPI①、②は目標値を達成するなど、地域コミュニティの強化や地域外からの交流人口拡大が図られた。</p>	<p>各小学校区で地域づくりに携わる地域の方々の人数の総計</p>	260人	40人増加	40人 (達成)	100人増加 ※累計140人増加	【KPI増加分の累計(実績)】 140人 (達成)		<p>【令和元度の取組について】 ◆長野地区では、昨年度までの「美里にたくさんの人を呼び込む」ための取り組みとして、2年間の活動をふまえ、「自立した活動形態」を目指した方針を策定し、「大人が学べる学校」構想を論議していきます。また、人が集まるイベントとして、BBQ大会(仮称)の開催を目指して準備している。合わせて、引き続き、校舎やグラウンド、体育館を活用しての取り組みを積極的に呼び込む取り組みも行っている。</p> <p>◆辰水地区では、継続、断続的に施設の活用が行われる取り組みを定着させようとしている。「放課後子ども教室」や、「たつの和カフェくら」の開催、地域イベントの定着化など、地域に根差した取り組みができる場にしていく方向性を検討していく。</p> <p>◆高宮地区では、津市との協力により「校舎を倉庫として利用」することになったことから、「給食棟」を活用した取り組みに絞って検討しており、今春から、100名を定員とした「朝食カフェごはん屋」に取り組みしており、成果をあげつつある。現在、秋のイベントで美里産品を展示・販売するための具体的な取組を検討している。</p>									
												<p>◆人口減少にあっても衰退しない地域コミュニティと拠点の形成 ◆地域の食材の活用、販路や交流人口の拡大</p>	<p>各小学校区での取り組みを通じて創出する地域外からの集客数:360人 ※計画期間(5年)合計</p>	360人	100人増加	4,800人 (達成)	(総事業費) 1,500,000 (うち交付金 充当経費) 735,000	100人増加 ※累計200人増加	【KPI増加分の累計(実績)】 4,900人 (達成)	(総事業費) 1,500,000 (うち交付金 充当経費) 735,000
												<p>マルシェ 収穫祭 スポーツ大会 など</p> <p>閉校する3小学校の活用</p>	<p>イベントにおける年間集客数:1,100人 ※計画期間(5年)合計</p>							